

# 東京都小学校学校行事研究会

## 令和3年度 東京都小学校学校行事研究会 夏季研修会

### 「小学校における学校行事の充実」

○日 時 令和3年8月3日（火） 13：30～16：30（受付13：00～）

○場 所 武蔵野市立第五小学校

司会・記録 東京都小学校学校行事研究会研究部長  
細井 鏡子（大田区立北糀谷小学校長）

○会 次 第

- 1 開会の言葉 東京都小学校学校行事研究会  
会長 鈴木 恒雄（武蔵野市立第五小学校長） 13：30
- 2 実践発表 『ハイブリット型文化的行事 弐分方フェスティバル』  
発表者 八王子市立式分方小学校 13:35～14:15  
主幹教諭 小畠 伸一 先生  
教諭 前田 沙緒理 先生
- 3 実践発表 『コロナ禍におけるカリキュラムマネジメント』  
発表者 日野市立日野第四小学校 14:20～15:00  
主幹教諭 関井 研司 先生  
主任教諭 尾沼 直也 先生
- 4 講 演 『児童が幸せになる学校行事』  
講師 玉川大学 TAPセンター 准教授  
川本 和孝 先生 15:00～16:25
- 5 閉会の言葉 全国小学校学校行事研究会  
会長 清水 弘美（八王子市立浅川小学校長）
- 6 事務連絡

## 1 開会の言葉

東京都小学校学校行事研究会

会長 鈴木 恒雄 (武蔵野市立第五小学校長)



このような状況の中、多くの皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。今年度は、感染対策を徹底して、夏季研修会を実施することといたしました。

本日は、全国大会で発表する予定の2校の実践発表と、玉川大学TAPセンター准教授 川本和孝先生によるご講演をもとに研修してまいります。予測困難な状況の中でも、小学校における学校行事が一層充実することを願っております。

## 2 実践発表

### 『ハイブリット型文化的行事 弐分方フェスティバル』

発表者 八王子市立弐分方小学校

主幹教諭 小畠 伸一 先生  
教諭 前田 沙緒理 先生



コロナ禍の新しい生活様式の中で心をつなぐ感動的な学校行事の実践発表でした。これまで展覧会と学芸会を隔年で実施していたことを、1.3.5年生は校内の特別教室を活用して図画工作と家庭科の作品を展示、2.4.6年生は体育館の舞台で発表(昨年度は、動画を撮影して公開)としたハイブリット型文化的行事「弐分方フェスティバル」として、毎年同じ形で行うようにしました。6年生の「うたつくプロジェクト」の活動は「いろいろな制約があった今年だからこそ自分たちの思いを伝えたい。」という子供たちの願いから、地域の音楽ユニットの方の協力を得て実現しました。自分たちの生活を振り返り、みんなで話し合い、歌を作り上げるという感動的な取り組みでした。参会者からは、「コロナ禍で人と関わることが難しい中、地域の方とも関わり、多くの人の心に自分たちの思いを届けることができたことでしょう。」

「『未来へ』という歌に込められた思いや取り組みから児童が大きく成長できたのでは。」「励みになりました。」などの感想を多くいただきました。



### 3 実践発表

#### 『コロナ禍におけるカリキュラムマネジメント』

発表者　日野市立日野第四小学校　主幹教諭　閨井 研司　先生  
主任教諭　尾沼 直也　先生



子供たちに育てたい資質・能力を明確にして、保護者・地域の願いも受け止めながら、教育活動全体を見直してカリキュラムマネジメントした実践発表でした。儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事、遠足・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事、それぞれをどのように見直して実践していくのか、詳しく発表されました。特に、学校での一泊(宿泊)行事は、子供たちの思いや願いをいかしながら、全教職員の理解と協力がないとできない実践でした。

コロナ禍において、学校行事の中止や延期が相次ぐ中、子供たちにとっての「かけがえのない学び」を大切にして実施できるように取り組んだ本実践は、参会者より「悲観的に考えるのではなく、発想を転換して行事を見直していくたい。」「カリキュラムマネジメントの観点で、学校判断で進められること、様々な制約の中で最大限何ができるのかを追究するということが参考になった。」などの声をいただきました。

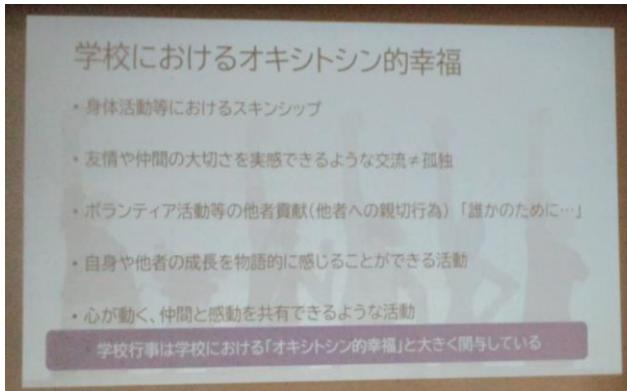
### 4 講 演 『児童が幸せになる学校行事』

講 師　玉川大学 TAP センター 准教授　川本 和孝　先生



川本和孝先生は、「小学校学級会の指導法」「特別活動の実践によって育まれる資質・能力」「集団・組織におけるリーダー・リーダーシップ育成に関する研究」など、学校だけではなくスポーツチーム、企業でも多岐にわたってご活躍されています。

今回の研修会では、「児童が幸せになる学校行事」というテーマで、学校行事を脳科学的に捉えたご講演をしてくださいました。「三大幸福物質」(セロトニン的幸福<心と体の安心>→オキシトシン的幸福<人との交流・スキンシップ>→ドーパミン的幸福<快感・意欲>)のお話では、順序性が大事であること、順序を間違えると不幸になってしまうことを学びました。学校行事は、子供たちの健やかな成長、幸せな人生を送る力を育てるために必要な価値ある教育活動であることを、理論的に熱くお話しいただき、学校現場で働く参会者の意気を高めてくださいました。



この研修会の申し込みをしたときにセロトミン、参加中にオキシトシンが自分の中で満たされていることが実感できました。今までと違う視点で学校行事の大切さを学ばせていただくことができました。

コロナ禍の中、このような研修会を開催していただき、ありがとうございました。特活を大事にしている先生方は、魅力ある方だと改めて感じます。川本先生のご講演は、うなずく点、驚かされる点、参考になる点がたくさんありました。今回、初めての参加でしたが、今後も参加させていただきたいと思います。



当日の研修会は、オンラインでも配信

## 〈参会者より〉

「三大幸福物質」の話から、子供たちに達成感を感じさせるための「順序性」の重要性がとてもよくわかりました。学校行事だけではなく、学級活動(1)でも集会をやることだけがすべて目的ではないと思いました。心と体→つながり→成功の順序性の大切さを校内に広めて学校行事に取り組みます。

子供たちの未来、社会情勢と今の教育とを関連づけてのお話に、広い視野で物事を考えることの大切さを学ばせていただきました。

「三大幸福物質には、優先順位がある」と聞き、これまで経験則的に感じていたことが、明確に理論付けされて理解が深まった。学級活動と学校行事の関係性についても、本校の教員に伝えたい。

本研修会に参会された皆様から、ご意見・感想・質問など、多数いただきました。一部の方しか掲載できなくて申し訳ございません。実践発表をした2校と講師の川本和孝先生にお届けいたしました。

## 5 閉会の言葉

全国小学校学校行事研究会 会長 清水 弘美 (八王子市立浅川小学校長)

本日発表した2校の実践は、コロナ禍でも感動を伴いながら、子供たちが自分のよきに気付いたり仲間と認め合ったり支え合ったりしながら取り組んでいる、学校行事ならではのよさをいかした素晴らしい実践でした。また、ご講演いただきました玉川大学 TAP センター准教授 川本和孝先生は、私たちにいつも元気をくださいます。学校行事が子供たちの成長にいかに大事であるか価値付けていただき感謝申し上げます。本日、研修したことをいかして、今後も共に小学校学校行事の充実を図っていきましょう。